

松江城天守出土の塩札

昭和 25～30 年（1950～55）に行われた松江城天守の解体修理工事の際、「塩蔵」ともいわれる天守地階から塩札が出土しました。塩札とは、塩を入れた俵（塩俵）に付けられた墨書がある木札です。

江戸時代、日本海沿いにある浦（漁村）は、小物成（年貢以外の雑税）として塩を松江藩に納めました。塩札の出土は、松江城に運ばれた塩俵の一部が天守地階に備蓄されたことを物語っています。

40 枚の塩札のうち 36 枚には、その両面に墨書があり、片面に郡名、浦名、庄屋名、年寄名が、もう片面には塩の質目（重さ）と「塩主」として生産者名が記してあります。

ちなみに、墨書された浦名は「菅浦」「片江浦」「北浦」「野波浦」「大芦浦」「千酌浦」とすべて島根郡の浦でした。当時の島根郡の浦々は、松江藩における塩の主要な生産地だったといえるでしょう。



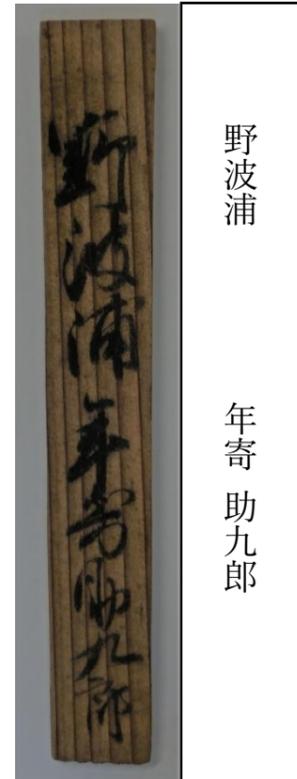
「菅浦」墨書塩札の一例（右は左の裏面）
(縦 21.5～22/横 2.9 cm、厚さ 7 mm)
※「菅浦」墨書は 9 枚



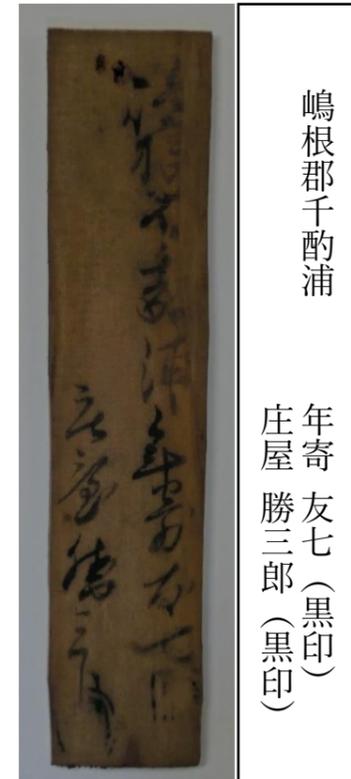
「片江浦」墨書塩札の一例
(縦 26.8/横 5 cm、厚 6 mm)
※「片江浦」墨書は 5 枚



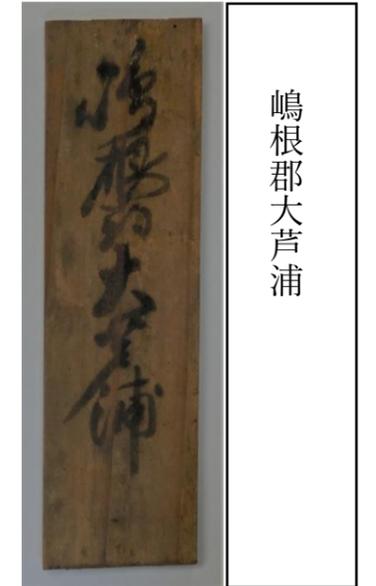
「北浦」墨書塩札の一例
(縦 24.7/横 4 cm、厚 8 mm)
※「北浦」墨書は 5 枚



「野波浦」墨書塩札の一例
(縦 19/横 3 cm、厚 7 mm)
※「野波浦」墨書は 11 枚



「千酌浦」墨書塩札
(縦 18/横 4.1 cm、厚 4 mm)
※「千酌浦」墨書は 1 枚



「大芦浦」墨書塩札の一例
(縦 15.2/横 4.4 cm、厚 6～8 mm)
※「大芦浦」墨書は 2 枚

【参考文献】
『松江市史』別編 1 松江城、松江市、2018 年



松江城天守地階（中央に見えるのは井戸。天守地階には水と塩が備蓄されていたことになる）

塩札の墨書に見える浦の場所（江戸時代の出雲国絵図より）

大芦浦

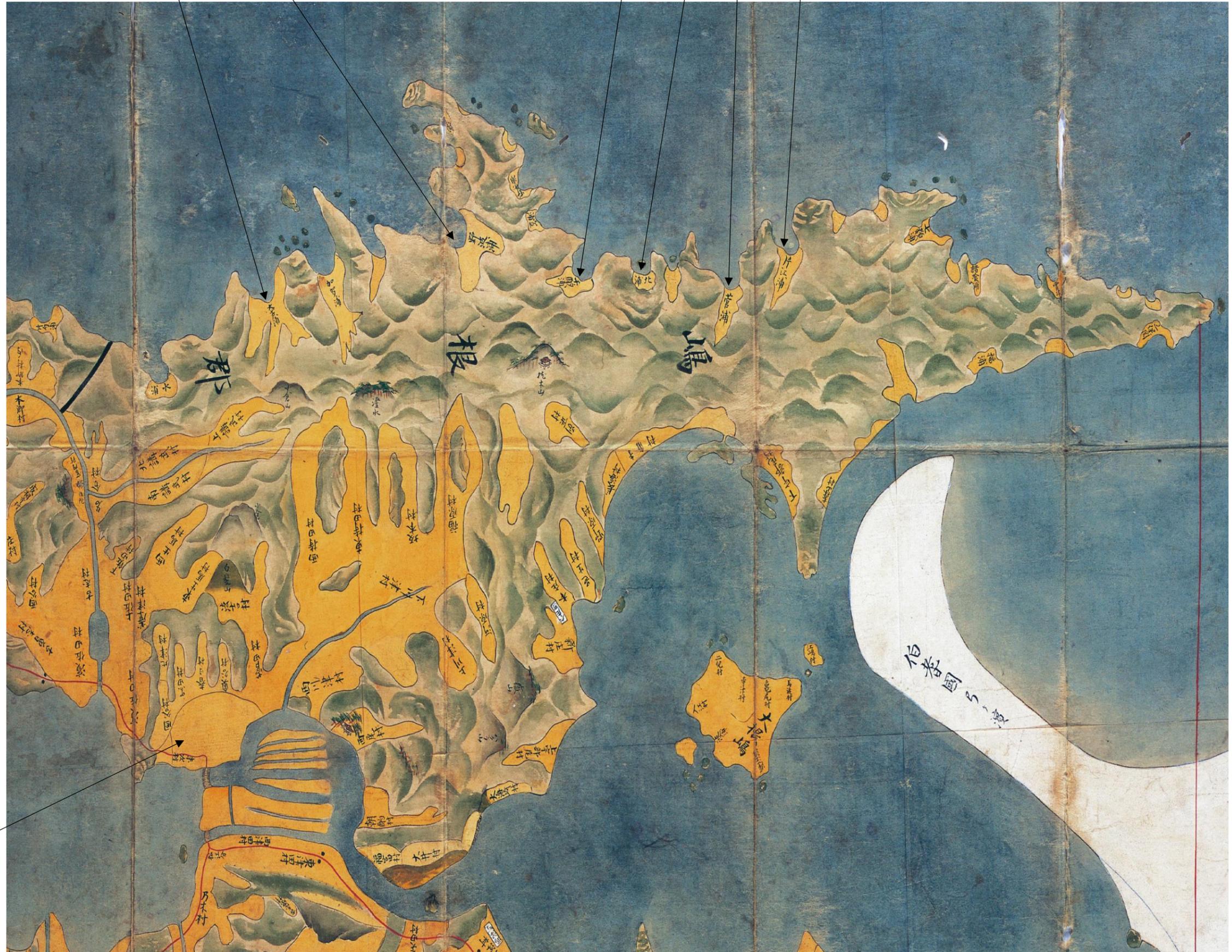
野波浦

千酌浦

北浦

菅浦

片江浦



松江城

※出雲国之図（文化4年〔1807〕、出雲文化伝承館蔵）部分